

(13ページから続く)

で考えていない薬局が多いのではないのでしょうか。検体測定自体にもコストがかかりますし、検体測定に関連する商品のバリエーションを揃えなければならないとなると、なかなか始めるのは難しいのかもしれない。処方

箋調剤中心の薬局では、なおさらですよ。検体測定を行って、病院で測った検査値と違っていたりしたら、ややこしいことになりかねません。薬局における検体測定が有用であることを、もっと周知させる必要があると思います。

そこで大切なのは、測定をスクリーニングと考えることです。これによって処方箋が何枚増えたということではなく、健康な人にこそ検体測定に来てほしいのです。数値上は異常がなくても、遺伝的に血糖値が高い人などは定期的にチェックしたいですね。

いんだと思います。イベントを通じて、急激に薬剤師の意識は変わっていくことを実感しています。

——検体測定によって一般市民の意識も薬剤師の意識も変わるんですね。

まさにそうです。口で言うよりも体験してもらえば分かります。「明日からの仕事の見方が変わりました」なんて言ってきた薬剤師もありましたね。検体測定をして自分でアドバイスすると、「自分の患者さん」という意識が芽生えるのでしょうか。これは医療者として非常に大切なことです。

——様々なことにチャレンジされてきた高市先生にとって、薬局薬剤師のやりがいとは何ですか。

検体測定を通して患者さんと関わっていると、プライマリの段階から関われますよね。患者さんとのコミュニケーションがあって、それまでのストーリーがあると、その人の物語を達成するために関わることができるんですよ。終末期でも、亡くなるまでの付き合いとなると、薬剤師以前に、その患者さんの願いや思いをどうやって達成させてあげるかというやりがいがあります。

たまたま薬剤師は薬物療法のプロであるだけで、そこまでどういう付き合いがあったかは一人ひとり違うわけです。一人ひとりの物語に対して、最後まで関わっていける、それをより良いものにするために努力できるというのは、医療人として、また1人の人間としてやりがいがあることですよ。単発なエピソードでは得られないものだと思います。長い患者さんとの付き合いがあってこそ、得られる感情ではないのでしょうか。

——最後に薬学生へのメッセージをお願いします。

若い皆さんはSNSにも慣れ、情報リテラシーは私よりずっと高いと思うので釈迦に説法ですが、たとえ先生の言うことであっても、先輩でも本でも、情報は鵜呑みにするなということです。そして根拠はなくても、仮説や物語で行動してもいいんじゃないかなと思うことです。そのためには、いい仲間をつくることでしょうか。

現状は「病人サポート薬局」 健康人にアプローチこそ必要

——将来的にAIなどが薬局に導入されていくかもしれません。そうなったときに、薬剤師の業務はどのように変わってくると思いますか。

どんどん変わってくるでしょう。膨大な情報は機械に任せたいと思います。薬剤師は、個々の患者さんのこだわりや好みに応じて、特徴に合った対応をしていくという一人ひとりの患者さんに対する“薬学的マネージャー”であるべきだと思いますね。

また、最近は健康サポートの概念が広がってきているとは思いますが、まだまだ「病人サポート」です。健康な人に一次予防としてアプローチしていくことこそが「健康サポート」であり、これからの薬剤師が担っていくべき部分だと思います。

職が失われるのではないかというネガティブな意見もありますが、そんな時代だからこそ、新たな業務に取り組んでいきたいです。例えば、面対応の薬局だと、10人の患者さんに対して10人の医師、10個のネットワークがあるわけです。そうなってくると報告書の作法も違ってきます。患者さんの情報をうまく機械で管理できるようになればだいぶ楽になりますし、在宅訪問時に経管栄養剤などを運ぶのは結構大変なので、運搬の面でも機械化や委託ができれば助かります。

機械に任せられるところは任せていくと、薬剤師が患者さんのためにできる範囲は変わって

きますよね。そういった技術が使える時代こそ、地域の連携が必要になってきます。

——他職種との連携はどのようにしていけばいいのでしょうか。

札幌市西区には「在宅ケア連絡会」というものがあり、これは結構昔から取り組んでいます。「薬剤師・ケアマネカフェ」や「薬剤師・栄養士カフェ」といったものを開いていますが、各職種の満足度はとても高いです。

例えば、医師が医療器具を選び、在宅現場に持っていったら合わなかったなんてことがあるんですよ。医療器具の選択などは薬剤師に任せてくれていいんですよ。物流は得意技ですからね。そういったことを話し合っ、患者さんのために効率的かつ包括的な医



対談を終えて

きらりと光る 地域の薬局へ

「家族の希望をかなえたい」「寄り添って生活したい」
患者さまのニーズにお応えできるよう 在宅訪問に力を入れています。
「薬剤師としての新しいステージへ」コスモは挑戦しています。
コスモ訪問看護リハビリステーションと連携し多職種連携によるチームの力で
患者さまに寄り添い安心してお薬を服薬できるようサポートしています。



コスモ薬局

埼玉県 (蓮田・大宮・越谷・黒浜・久喜・越谷東・岩槻・七左・レイクタウンDMビル
エムエム薬局・そね薬局・きらり薬局 岩槻) 千葉県 (我孫子)

cosmopharmacy.co.jp



コスモ 訪問看護リハビリステーション

埼玉県内3事業所 (さいたま北・蓮田・越谷)

cosmonurse.jp

2017
7/1(土)
コスモ薬局
在宅医療支援センター
OPEN

見学・採用のお問い合わせ

TEL 048-653-0306

コスモプラス(株) 採用担当 林まで 受付時間 9:00~17:30 (日祝日を除く)